

副読本を用いた「治水」の風土性に関する研究

岐阜大学 学生員 ○山田 孝太郎
岐阜大学 正会員 田中 尚人
岐阜大学 正会員 秋山 孝正

1. はじめに

濃尾平野を流れる揖斐、長良、木曽の三川の「治水」に関わる技術、思想、文化は、流域の風土を規定するものと考えられる。本研究は、長良川流域の地域学習の実態を調査し、「治水」に関連する技術、思想、文化の取り扱われ方を分析することにより、地域間の風土の違いを明らかにすることを大目的としている。本研究では、まず地域学習における副読本を用いて、「治水」の風土性について分析を行った。

研究の対象地域は、岐阜県内の長良川水系であり、水系に存在する市町村内の小学校(155 校)を長良川の上流(59 校)、中流(66 校)、下流(30 校)の三つの地域に分け分析を行った。

2. 副読本を用いた分析手順

(1) 地域学習の概要

小学校学習指導要領によると、現在での小学校の社会科では、1・2年生(生活科)で自立への基礎を養い、3・4年生で身近な地域について学習し、5年生で日本についての学習、6年生で国際社会についての学習を行っている。本研究では3・4年生で行う、自分たちの住む身近な地域の学習を「地域学習」として取り上げる。

(2) 副読本資料に見る学習教育内容

小学校中学年の社会科では、自分達の市町村や県を取り上げ、自分達の住む地域に関する学習を行う。しかし、一般的に配布されている社会科の教科書は、全国的なレベルで編集されており、身近な地域の学習を完全にはサポートしていない。そこで、県や市・町レベルで地域に即した「社会科副読本」が各地域の教育委員会や研究組織によって制作される。

学習指導要領(社会編)第2章の第2節「社会科の内容」には、第3学年及び第4学年の学習内容は、地域社会の社会的事象について取り上げることとしており、以下の6項目から構成されると記されている。

- (ア) 自分達の生活や地域の地形、土地利用、公共施設などの様子
- (イ) 地域の生産や販売に携わっている人々の働き。
- (ウ) 地域の人々の健康を守るための諸活動。
- (エ) 地域の人々の安全を守るための諸活動。
- (オ) 地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例。
- (カ) 県(都、道、府)の地形や産業、県内の特色ある地域。

この6項目は、各地域の社会科副読本の目次の構成などに反映されている。

表-1 副読本データベースの一部

番号	書名	備考	編著者名	学習指導項目	章タイトル	キーワード
13	わたしたちの村 たかす		岐阜県高鷲村教育委員会	*	特になし	*
22	郷土 あさひ	22.23同一資料	朝日村小中学校社会科研究会	生活	水の利用	朝日ダム 野中用水
128	郷土 荘川		荘川村郷土荘川編集委員会	生活	水の利用	御母衣ダム 中央用水
8	輪中と治水		丸山幸太郎 ほか	特色ある地域	木曽三川と輪中 輪中と水害 宝暦の治水 明治の三川分流工事 輪中の生活 生まれ変わる輪中	輪中に関するすべて
36	わたしたちの上之保村	36.37同一資料	安田 良二 他14名	特色ある地域	上之保村と海津町	輪中 水屋 宝暦治水 千本松原
3	わたしたちのまち坂祝		加茂郡坂祝小学校	防災・安全	安全なくらし	9・28災害
11	わたしたちの郷土	10.11同一資料	第七回全国土地改良大会運営委員会	防災・安全	古川町のあゆみ	宮川右岸堤防
10	わたしたちの郷土	10.11同一資料	第七回全国土地改良大会運営委員会	地域開発	土地の開発	宮川右岸用水(生活用水) 数河開拓用水(生活用水)
12	あたらしい岐阜県の暮ら		岐阜県小学校社会科研究	地域開発	郷土につたわる人々の願い	三川分流工事

* 岐阜県総合教育センター図書室資料より筆者作成

このように社会科副読本は、基本的に学習指導要領の項目に準じて制作されるが、各地域の特色によりヴァリエーションも多い。

3. 「治水」の風土性に関する分析の為に副読本データベースの構築及び分析

(1) 副読本データベースの構築

研究の基礎資料とするために、岐阜県総合教育センター図書室にて副読本に関する資料収集を行った。資料数は106冊、(a)書名、(b)編著者名、(c)発行者、(d)出版年、(e)体裁、(f)キーワード、(g)分量、(h)内容、を調査・整理した(表-1参照)。副読本データベースの作成において、学習指導項目による分類は各副読本の章のタイトルを判断して行い、章のタイトルで判断できない場合は節のタイトルを参照した。分類を行った結果、先の6項目の中では、ウ、エ、オ、カの4項目のみ「治水」について取り上げられていたので、ウ「生活」、エ「防災」、オ「地域開発」、カ「特色ある地域」と略称をつけ、内容を整理した。

(2) 学習指導項目の統計的分析

構築した副読本データベースには、全部で132項目の内容が納められ、生活:12項目(9%)、防災:35項目(27%)、地域開発:57項目(43%)、特色ある地域:10項目(8%)、特になし:18項目に分類された。これをもとに、各副読本の作成地を地図上にプロットし、項目の分布図を作成した(図-1)。この分布図を用いることにより、副読本の項目の地域的な特性の分析が可能となった。

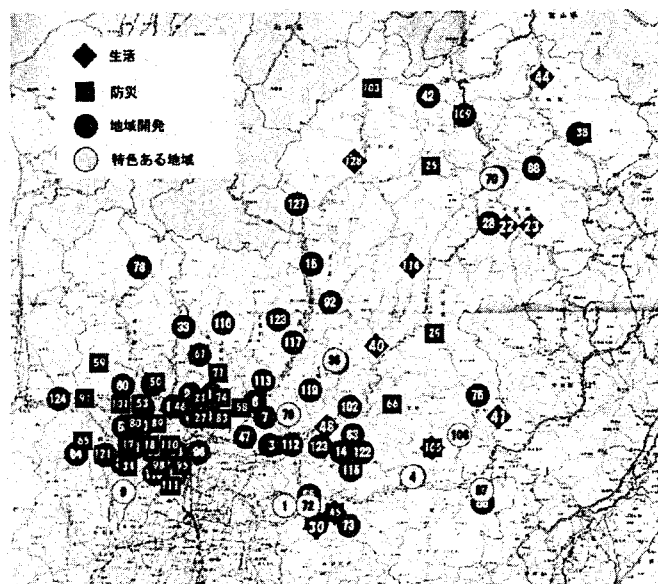


図-1 副読本項目分布図(筆者作成)

輪中地域では「生活」に分類される項目はない。これは、輪中地域では生活と「治水」が深く関わっている、「防災」に分類されていることを示している。逆に、輪中地域以外で「生活」として取上げられている事項は、治水よりも利水に関連しているものであると考えられる。

章タイトルにより「地域開発」に分類された副読本は、長良川流域全体的に分布しており、「きょうど」を含むものが多い。しかし具体的には「きょうど」とは一つ一つ違う場所を指すのであり、その内容は多種多様である。

「特色ある地域」に分類された事項では、山間部においても、自分たちの土地と低い土地との比較のために輪中を取り上げている、「わたしたちの上之保村」【項目番号:36】、「飛騨の高山」【70】、「わたしたちの福岡町」【106】、などの事例が注目される。

(3) キーワードを用いた分析

キーワードの総数は225個。治水施設として、用水:65個、ダム:14個、堤防:13個、ため池:8個があり、用水の数が目立って多い。用水65個のキーワードは、「地域開発」の分類で55個が取り扱われている。用水は各地域に必須のインフラストラクチャーであり、学習対象になりやすいと考えられる。また「地域開発」の分類のうち、輪中地域(養老、安八、神戸、羽島、大垣、大野、長良、日新など)で取り扱われているキーワードは、「宝暦治水」や「三川分流工事」等に関するものがほとんどであり、内容構成も似かよっている。

4. おわりに

本研究では、岐阜県内の副読本資料から構築した副読本データベースを用いて地域学習の風土性に関する分析を行った。今後は、副読本の内容をより精緻に分析、そして類型化することにより「治水」の風土性を明確に呈示する。また、対象地域内の各小学校における地域学習の実態、特に土木遺産の活用などについてヒアリング調査を行う。

【参考文献・資料】

- 1) 文部科学省:小学校学習指導要領(社会編)
- 2) 岐阜県教育委員会:

HP アドレス <http://www.pref.gifu.jp/s17765/top/>

*資料収集には、岐阜県教育委員会及び岐阜県総合教育センター図書館にお世話になった。記して感謝の意を表します。